

# つちおと



復興庁

Reconstruction Agency

令和4年1月6日発行

宮城復興局気仙沼支所

気仙沼市笹が陣3-5

気仙沼市シルバー人材センター2F

第84号



## 11/6~7日 気仙沼スローフェスタ開催

東日本大震災10年復興記念事業「気仙沼スローフェスタ2021」が東日本大震災復興交付金や県・市の補助金等で整備された内湾エリア等で開催されました。新型コロナウイルス感染拡大に伴う制限解除後、市内では初となる大規模イベントで、会場では俳優の渡辺謙さん、歌手の尾崎亜美さんらによる音楽ライブや、気仙沼市が日本で初めて認定を受けたスローシティ、都市宣言をしているスローフードへの理解を深めるためのシンポジウムが開催されました。また、様々な飲食店がブースを出店し、ステージでは市内各地区の郷土芸能が披露され、訪れた多くの方が久しぶりのイベントを楽しんでいました。



## ～ 7月5日 都市計画道路 潮見町赤岩五駄鱈線【新曙橋開通】 ～

気仙沼市が整備を進めていた新たな曙橋が7月5日に開通し、都市計画道路「潮見町赤岩五駄鱈線」が全線供用開始しました。この都市計画道路は、物流・産業の活性化、災害時の避難を目的として、気仙沼港側の潮見町と山側の赤岩五駄鱈地区を結ぶ、延長約1.6kmの道路で、東日本大震災復興交付金約73億円を財源に市が整備を行ったものです。

新曙橋は、長さ131メートル、幅員約20メートル(車道上下線で11メートル(路肩含み)、歩道4.5メートルが上下線に整備)。水面からの橋の高さは、旧橋の2倍以上となり、津波や洪水への対応がなされています。

開通式には、市議会議員や関係者をはじめ、沿線自治会の代表など、約30人が出席。気仙沼市長の挨拶のあと、菅原清喜市議会議長の祝辞、テープカットと続き、渡り初めが行われました。



## ～ 12月2日 市道田中前杉ノ沢線【神山川歩道橋 開通】 ～

気仙沼市が整備を進めていた、田中前地区と赤岩杉ノ沢地区を結ぶ神山川歩道橋が完成し、12月2日開通式が開催されました。

赤岩杉ノ沢地区は東日本大震災後、市が防災集団移転団地を整備、気仙沼市立病院もあり、対岸の条南中学校側の田中・神山地区との交流促進をはじめ、買い物等、周辺住民の利便性向上を目的に計画、整備されました。

本歩道橋は、東日本大震災復興交付金約5億1千万円を財源として、気仙沼市が整備を行ったものです。



## ～ 10月16日 岸田首相 内湾地区を視察 ～

10月に第100代首相に就任した岸田文雄首相と西銘恒三郎復興大臣が、16日気仙沼市の内湾地区を訪れ、復興状況を視察し、内湾地区の「迎(ムカエル)」の2階デッキで菅原市長から復興状況の説明を受けました。

菅原市長は、ハード事業が進む一方で、被災者の心のケアやコミュニティづくりなどの課題が残っていることのほか、被災した大島の亀山リフトの代替え施設として「モノレール」整備の支援を要望されました。

その後、気仙沼市まち・ひと・しごと交流プラザ内にある□(スクエア)shipで、加藤航也移住・定住センター長、成宮崇史気仙沼まち大学運営協議会チーフコーディネーターと、移住における課題等について、対談。最後は、「つばき会」のメンバーが福来旗を振り、「いってらっしゃい」と大勢の市民がお見送りしました。



## 11月16～17日【西銘復興大臣が気仙沼市と南三陸町を視察】

西銘復興大臣が16日、気仙沼市を訪れ、気仙沼市復興祈念公園の「祈りの帆(セイル)」で献花し、黙礼を行い、気仙沼湾を望みながら、菅原気仙沼市長から三陸沿岸道路や造船施設など、復興事業の説明を受けました。

その後、気仙沼市まち・ひと・しごと交流プラザで、水産加工会社を経営する大島忠俊社長ら5人と「車座対話」を行い、水産業の不振や人手不足などの課題や、被災者の心のケアに関する課題について、メモを取りながら話を聞き、復興庁としてしっかり受け止める旨伝えました。

17日は南三陸町復興祈念公園で献花・黙礼を行い、佐藤南三陸町長からの説明を受けながら、さんさん商店街や整備中の道の駅を視察しました。



南三陸町復興祈念公園で、献花・黙礼

車座参加者は、復興庁 西銘恒三郎大臣、気仙沼商工会議所 菅原昭彦会頭、大島水産 大島忠俊社長、まるオフィス 加藤拓馬代表理事、気仙沼つばき会 斉藤和枝会長、心のケアセンター気仙沼地域センター片柳光昭課長、気仙沼市菅原茂市長、宮城復興局中島洋局長(司会)

## ～ 気仙沼市に防災物資集積配送基地が完成！ ～

気仙沼市の防災物資集積配送基地が7月、赤岩牧沢地区にある市総合体育館「ケー・ウェーブ」敷地内に完成しました。建物は鉄骨2階建てで、1階は800平方メートル、2階は600平方メートルの倉庫で、保存食、飲料水、衛生用品など最小限の物資を備蓄します。

東日本大震災の際は急遽、市内四反田の旧地方青果市場を集積配送拠点として使用しましたが、同市場が使用できなくなったことや、今後、災害が発生した場合に備え、同機能を確保し、市内外から届く救援物資を受け入れることを目的に、東日本大震災復興交付金約4億円を財源として、市が整備を行ったものです。本基地は物資を備蓄する他に集積・配送スペースを確保しており、搬入された物資を必要に応じて各避難所に配送します。

本基地の内部には会議室もあり、平時は防災に関する講習会等に使用される予定。普段は無人ですが、災害時には職員が泊まることを想定し、仮眠室やシャワーも設置。物資運搬用フォークリフトも配置されています。

## &lt;施設概要&gt;

敷地面積 約6,600㎡

建築面積 約900㎡

延床面積 約1,800㎡

総工費 約446,000千円

(内訳) 建築工 343,000千円

電気設備工 71,000千円

機械設備工 32,000千円

主な設備 非常用電源

太陽光発電・蓄電池

荷物用エレベーター

非常時用の受水槽

フォークリフト(1階、2階に設置)



## ～ 南三陸町の道の駅【さんさん南三陸】の整備が進んでいます ～

南三陸町が志津川地区被災市街地復興土地区画整理事業で整備された区域にある、「さんさん商店街」の北側に、新たな道の駅「さんさん南三陸」整備を進めています。

施設は鉄骨一部2階建て、総工費は約13億円。設計は南三陸さんさん商店街や、商店街と南三陸町復興祈念公園を結ぶ「中橋」を設計した建築家の隈研吾さんで、南三陸さんさん商店街と合わせて「道の駅」として国土交通省に登録されました。

コロナの影響で建築資材が不足し、今年度の完成予定が最大で半年遅れる見通しとなりましたが、「道の駅」には高速バスのターミナルのほか、東日本大震災の伝承施設「南三陸311メモリアル」や展望デッキ、観光案内所などが整備される予定です。



## 【編集後記】

◆震災後10年が経過し、住宅や道路の整備は進みました。一方で、心の復興や産業の復興は、まだ復興途上にあります。これからも「つちおと」は気仙沼市・南三陸町の小さな復興にも目を向けて、皆様にお伝えしていきたいと思っております。

宮城復興局 気仙沼支所長 山田

これまでに発行した「つちおと」は、復興庁ホームページで御覧いただくことができます。

**復興庁HP** (<http://www.reconstruction.go.jp/>)

→ **宮城復興局**

→ **気仙沼支所だより「つちおと」**